

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	高齢者福祉課	氏名	青砥 智訓
派遣先 団体名	城北公民館		

1. 研修の日時

- | | | |
|---|---------------------|-------------------------|
| ① | 5/30(水)13:30～15:00 | 初回打ち合わせ |
| ② | 6/16(土)9:00～10:30 | 城北小学校芝植イベント事前準備 |
| ③ | 6/17(日)9:00～10:30 | 城北小学校芝植え |
| ④ | 8/6(月)18:00～19:00 | 城北小学校芝刈り |
| ⑤ | 8/10(木)14:00～16:45 | 城北地区福祉アンケート検討会 |
| ⑥ | 8/19(日)9:00～22:00 | 城北夏祭りの運営補助 |
| ⑦ | 8/20(月)9:00～18:00 | 城北夏祭りの片付け |
| ⑧ | 10/24(水)10:00～12:00 | 城北地区福祉アンケート検討会（基本集計・分析） |

2. 研修の内容、感想

まずは、今回の研修を暖かく迎えてくださった音田館長をはじめ、公民館の職員の皆様、並びに福祉アンケートに関しては城北地区社会福祉協議会の高橋会長をはじめ関係者の皆様には、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

当初、研修先の決定までは、研修内容は城北夏祭りの運営補助ということでした。しかし、音田館長のご厚意により、初回打ち合わせの結果、夏祭りだけでなく、福祉アンケート検討会へも参加させていただくことになりました。こういった機会を与えてくださったことに対しましても感謝しております。

さて、研修ごとの内容とそれに対する感想について述べさせていただきます。

今回の研修では、主に3つのことに携わらせていただきました。

(1)城北夏祭りの運営補助

8月19日(日)に城北公民館で開催された城北祭りの運営補助(舞台等の会場設営、出演者・来場者の接待、誘導、イベント補助)を行いました。

当日は、公民館発足40周年記念(松江市が昭和46年に設置し、民間が運営する公設民営方式)ということもあり、当日は昼から夜にかけて多くの住民で賑わいました。

また、夏祭りの次の日には、地域住民の方々や学生ボランティアの方々と一緒に、舞台やテントの片付け、ゴミの分別、ブルーシートの洗浄などを行いました。

【感じたこと】

公民館の職員の方々は、地域の住民と一緒にあって、懸命にお祭りを盛り上げておられました。特に印象的だったこととしては、「1歩先のこと、今何が必要で、どこに人手が足りていない、何が不足しているか」などを、瞬時に、かつ臨機応変に対応できる職員の方々に感銘を受けました。



写真1
(お祭りの様子)



写真2
(片付けの様子)

(2) 城北小学校の芝生植え

まず、城北小学校は、自分の母校ということもあり、今回のイベントに際して、とても懐かしく感じました。また、校舎は近年建て替えが行われましたが、今なお多くの子ども達が、昔と変わらず通っていることに対して、嬉しい想いがしました。

さて、芝生植えイベントへは、6月17日(日)のイベント当日に向けて、前日のイベント準備(主に穴掘り)から参加させていただきました。

事前準備では、役員や学校関係者だけでなく、建築組合の方々、地域住民のボランティアの方々など、多くの方々が当日のイベントを成功させるために準備を進めておられました。また、私は前日準備だけでしたが、それよりも以前に行われた調整や打ち合わせなどについても、関係者の皆様は、大変なご尽力があったことと思います。

そうしたこともあって、イベント当日は約1,000名を超える地域住民が参加され、予定より早く芝植えを終えることができました。

また、イベントから約1ヶ月半後の8月6日(月)には、芝刈りと肥料まきも手伝わせていただきました。

【感じたこと】

芝生植えに参加させていただき、大きく2つのことを感じました。

1つ目は、芝生の環境やメンテナンスのきっかけを通して、地域住民が学校に関わる機会が増えること(例えば、高齢者の活躍の場が出てくるなど)、2つ目は芝生のメンテナンスによって交流の場(例えば、学校と地域住民、子どもと大人、高齢者と高齢者など)が生まれてくることです。

この芝生という環境を通して、「わが孫でなくても“地域の子どもたち”」という気持ちや、地域全体に一層広がっていき、多くの方々の交流の場にもつながっていく

ことを楽しみにしています。



写真3
(芝刈りの様子)

(3)城北地区（22町内会）在住の高齢者に対する福祉アンケートの結果分析

城北地区社会福祉協議会では、「地域福祉は身近な住民の手で！」をテーマとした「第3次地域福祉活動計画」を昨年策定しておられます。

そもそも小地域福祉活動とは、「地域社会に存在する組織を基盤に、地域住民が生活・福祉課題を自分たちの問題として捉え、さらにそれを何とかしたいという気持ちを引き出し、当該地域の福祉的な機能を高めていく取り組み」とされています（島根県社会福祉協議会「しまね流『自治会区における福祉活動』への提案」より抜粋）。

この小地域福祉活動を推進していく過程で、高齢者の生活状況及び福祉ニーズの把握が重要になっており、今回はそのためのアンケートが実施されました。

本アンケートは、世帯ではなく高齢者一人一人を対象に実施されました。アンケートにおいてまず最初に驚かされたことは、回答率が約9割という高さであったことです。こういったことから自治会長をはじめとする役員の方々のご尽力や、住民の方々の期待をうかがうことができました。

アンケート結果は現在集計中ですが、例えば以下のようなことが分かっています。

- ①地域への愛着がある方の割合がとても高いこと
- ②地域の良いところとして、治安がよい、買い物場所が充実している、交通の便が良いなどの意見が多いこと
- ③困ったときの相談相手として、家族・親戚の割合が高いが、個別相談を行いやすい医療機関や行政機関などの割合も高いこと
- ④地域包括支援センターが少しずつ身近な機関になってきていること など

今後は、地域別、年齢層別、家族構成別などによって、クロス集計などを行い、詳しく分析が行われる予定です。

【感じたこと】

今回は研修では、こういった結果について、住民や専門家と一緒に、顔を合わせて話をする大切さを、改めて感じました。実際にみんなでワイワイ・ガヤガヤを行うことで出てくる話や雰囲気というものから、課題発見（気づき）や対応案

が出てくるものです。また、全体の気運づくりという点でも、今回のように「みんなで進めていくプロセス」や「思いの共有」というものは重要なことだと感じました。また、何か困難にぶつかったときにも、それまでのプロセスや思いが、その困難を乗り越える大きな糧となることと思います。

次に感じたこととして、こういった場をセットする公民館の「コーディネート力」です。松江市では公民館に地区社協事務局が設置されており、「社会教育」「まちづくり」「福祉」というものが連携・連動しています。おそらくこれは、対象である「地域」は1つという点に尽きるのだと思います。地域の中心機関となって公民館が、住民や専門家を巻き込んでいくことは、今後の小地域福祉活動を推進していく上で、一つの方向性を示すものだと感じました。

今回の研修期間は終了しますが、本アンケートについては、関係者に皆様のご配慮によって、最終結果まで携わらせていただけたとのことでした。このことについても心より感謝しております。

3. 最後に

最後に、公民館は「地域の宝」です。公民館は、人づくりの拠点、人や団体をつなぐコーディネーターとしてこれまで存在・機能してきました。今回の研修では、そのことを、身をもって感じることができました。

ところで、県公民館連絡協議会と県教育委員会が実施している『実証！「地域力」醸成プログラム』（H19～）では、そうした公民館の力を利用して、地域の諸課題を解決し、地域の元気を取り戻すことを目指しています。

今回の研修では、醸成プログラム以外の部分においても、公民館が地域の最前線で活躍しておられることを、改めて知ることができました。

自分も、地域の課題に取り組んでおられる公民館に対して、これまで以上に興味をもち、関係をもっていくことで、自分の仕事の面でも、現場意識を忘れない職員になれるのではないか、と思っています。